

令和6年度大学等の理系転換・拡充による人材育成機能強化会議

ポスターセッション、ポスターデーター一覧

◎参加校掲載ページ（本ファイルには赤字の大学等のポスターを掲載）

旭川市立大学	1	梶山女学園大学	32
北海道科学大学	2	日本福祉大学	33
青森大学	3	桜花学園大学	34
八戸工業大学	4	四日市大学	35
東日本国際大学	5	京都女子大学	36
共愛学園前橋国際大学	6	京都光華女子大学	37
城西大学	7	京都橘大学	38
東都大学	8	桃山学院大学	39
千葉工業大学	9	大阪電気通信大学	40
麗澤大学	10	追手門学院大学	41
神田外語大学	11	関西大学	42
青山学院大学	12	甲南大学	43
大妻女子大学	13	武庫川女子大学	44
北里大学	14	関西国際大学	45
駒澤大学	15	ノートルダム清心女子大学	46
芝浦工業大学	16	福山市立大学	47
中央大学	17	広島工業大学	48
東洋大学	18	広島修道大学	49
日本女子大学	19	安田女子大学	50
東京都市大学	20	下関市立大学	51
明治学院大学	21	山陽小野田市立山口東京理科大学	52
立教大学	22	周南公立大学	53
東京通信大学	23	松山大学	54
横浜市立大学	24	高知工科大学	55
神奈川工科大学	25	北九州市立大学	56
昭和音楽大学	26	福岡工業大学	57
富山県立大学	27	久留米工業大学	58
金沢学院大学	28	西九州大学	59
福井県立大学	29	南九州大学	60
長野大学	30	博多大学（仮称、大学設置認可申請準備中）	61
名古屋市立大学	31		

<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：既存学部の新設・廃止・増員
設置等組織名：理学部理学科
入学定員：【R9増員】改組前43名 → 改組後90名
所在地：愛知県名古屋市瑞穂区

理学部理学科 (仮称)



1 学科3コース体制：生命科学コース・物質科学コース・数理情報科学コース

現代社会の諸課題を解決するため、基礎科学を基盤として理学の多様な分野を学際的に連携させる

「量子・光物理学」、「持続性理学」、「複雑系理学」を基軸とした分野横断的な学問領域を創出し、量子技術、グリーン・環境エネルギー、デジタル・AI技術などの成長分野で活躍できる人材を輩出

令和9年度から
入学定員90名

【入学者選抜】
一般選抜や学校推薦型選抜の方法を見直すことで、多様な能力を持つ入学学生を適切に評価して確保する

入学・1年次
理学の基礎
を広く学修

2年次～
生命科学コース
物質科学コース
数理情報科学コース

3年次 後期～4年次
卒業研究

量子・光物理学
(量子技術)

複雑系理学
(デジタル・AI技術)

成長分野で学際的
視点に立ってリー
ダーシップを発揮
できる人材、科学
技術イノベーション
に貢献する人材
を輩出する

名古屋市の諸機関や地元企業などと連携し職業へのモチベーションにつながる科目を整備
高校生の進路選択のために理学の魅力を分かりやすく解説するイベントを積極的に開催

令和6年度の取組

入学者選抜

令和9年度から入学定員を90名に増員するにあたり、学校推薦型選抜の拡充(定員10名)、一般選抜において前期日程(定員40名)の導入・後期日程の選抜方式の変更を【2年前予告】として公表

高校生にアピール

高校生に対して、オープンキャンパス・学部説明会・出前授業・高大連携授業・丸ごと研究室体験を実施し、基礎科学の意義と重要性、科学研究の面白さ、男子女子関係なく活躍できることや本学部の特徴をアピール
将来高校生となる小中学生に対して「夏のおもしろ科学実験教室」や「AIプログラミング教室」を開催

教育体制やポリシーの整備

生命科学コース・物質科学コース・数理情報科学コースの3コース制に向けて授業科目を充実させ(演習科目の新設や情報科学関係科目の整備など)教育体制の変更に合わせて、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを改訂

新学舎の計画



大学外の機関との連携

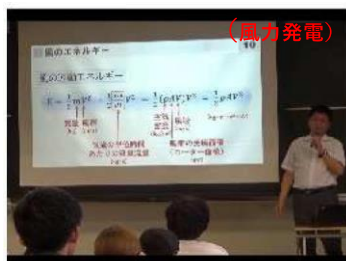
経済団体(中部経済連合会・名古屋商工会議所)や名古屋市立高校との連携により学生の正確なニーズを把握し、名古屋市の諸機関や地元企業と協力して「科学技術が創造する未来(仮称)」「工場・研究所見学(仮称)」など職業意識のモチベーションにつながる授業科目を構想(以下は授業イメージ)

火力発電の仕組み



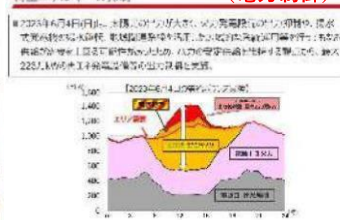
(火力発電)

(風力発電)



再生エネルギーの抑制

(電力制御)



蓄電池(二次電池)

～リチウムイオン電池～(蓄電池)



<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：情報社会学部情報デザイン学科
入学定員：【R6新設】102名
所在地：愛知県名古屋市千種区



工学と文学を融合した「真の学際学科」を設置!!

実践的な授業でICTスキルを身につけ、
種々の社会課題を解決していくための
工学を活用した情報をデザインできる
人材を養成

改組後の教育内容

1.基礎から応用まで幅広く学ぶICTスキル

情報をデザインするために必要なICTスキルを基礎から学びます。
文系・理系問わず対応できる学びのプログラムで、卒業までに高度で専門的なスキルを修得します。

2.アイデアを実現させるデザイン思考と表現力

ビジネスや社会問題に対するアイデアを生み出すための創造性と表現力を学びます。情報の扱い方を理解することで、コミュニケーション力や問題解決能力を備えます。

3.デジタルアーカイブを活用して社会と連携

歴史文書や文化遺産などの知的資源をデジタル化して記録・整理・保管する技術を学びます。図書館・博物館・地域ボランティアなどと連携しながら、地域社会を支える人材を育成します。

申請要件の内容

②学生確保の見通し

東海エリアの高等学校に入学意向調査を行った結果、入学定員を上回る学生確保が可能であると結論付けました。

③学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び入学選抜の適切性
「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の3つの領域を設定。入学選抜については、「知識・技能」を中核的な資質・能力として設定。

④特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育環境の整備

最先端のデータサイエンス、AI、情報処理技術の利活用、文化財や歴史的遺産の電子的アーカイブに関する知識と技術を修得するための科目、及びプロジェクト型の多様な演習科目を配置。新校舎の建設やメディアラボの整備を予定。

⑤実務経験のある教員等による授業科目の配置

実務経験のある教員等による授業科目を複数配置し、非常勤としてICT系企業の社員を講師として招聘。

⑦具体的な人材ニーズの存在及び地域における特定成長分野を必要としている企業との事前協議

人材のニーズについてアンケートを行い、135社から398名以上の採用意向の回答を得ました。また、企業人の外部評価委員から「情報デザイン学科」についても意見を聴取しました。

⑪外部資金の獲得

大学全体の外部資金獲得額の申請時点の平均(過去5年間の中央値3年分の平均)は130,151千円であり、科研費獲得額は近年上昇しています。

⑫自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と実施、多様な入学確保に向けた取組

他大学や自治体と連携した「あいちワークショップ・ギャザリング」を実施しており、情報技術とデザインに関連したPBLを行います。また、他大学との単位互換事業を実施しています。多様な入学確保については2024年度から入試方式の見直しを行います。



令和6年特に力を入れて実施した取組・整備状況

企業連携を通じた教育体制の整備と実施

初年次教育「社会課題を情報で解決」

- ✓ 必修科目「基礎演習」で(株)デンソーと連携授業。
- ✓ 企業が社会課題の解決に取り組む際の手法を学び、在学中の研究活動や卒業後の社会に必要なスキルを習得。
- ✓ グループワーク形式での協働性・思考力・判断力を高める。
- ✓ アイデアソンでは、身近な社会課題(自然災害、観光、交通、小売、物流配達、デジタルデバイド、教育)の中からテーマを選び、情報技術による解決策を提案。
- ✓ 情報収集や調査計画などアカデミックスキルを学び、データに基づいて実現可能性を検討。
- ✓ 成果はポスター形式で、現時点で学生は、慣れないながらもグループ内の意見共有とチームワークの大切さを実感しながらポスターをまとめている。
- ✓ ポスター発表では、授業担当以外の教員や、企業、愛知県職員などが加わり、社会課題解決方法の議論をする予定。
- ✓ 令和7年度実践に向けて授業評価予定。

授業の流れ

アイデア創出
トレーニング
提案の実際

社会課題
アイディア
ソン

情報収集
調査計画
議論

ポスター
発表・議論

環境整備

表現・モノづくりを支援する環境の整備状況

- ✓ デジタル環境に加え、身体性を伴う学習環境を整備。
- ✓ ハード面では多様な出力のための業務用機材を整備。
- ✓ ソフト面ではBYOD環境でのAdobeCreativeCloudを学生に無償提供。
- ✓ 2年次「情報処理演習A」、専門科目で利用する機材の整備。
- ✓ 主体的利用を促すための仕組みづくりは今後の課題。

▶身体性(左から表現基礎授業風景、電子工作、VR用機材等)



▶多様な出力(左から3Dプリンタ、刺繍ミシン、レーザー加工)



▶多様な出力(左からDFTプリンタ、UVプリンタ、大判プリンタ)



<基本情報>

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名：工学部
入学定員：【R7新設】100名
所在地：愛知県半田市東生見町26-2

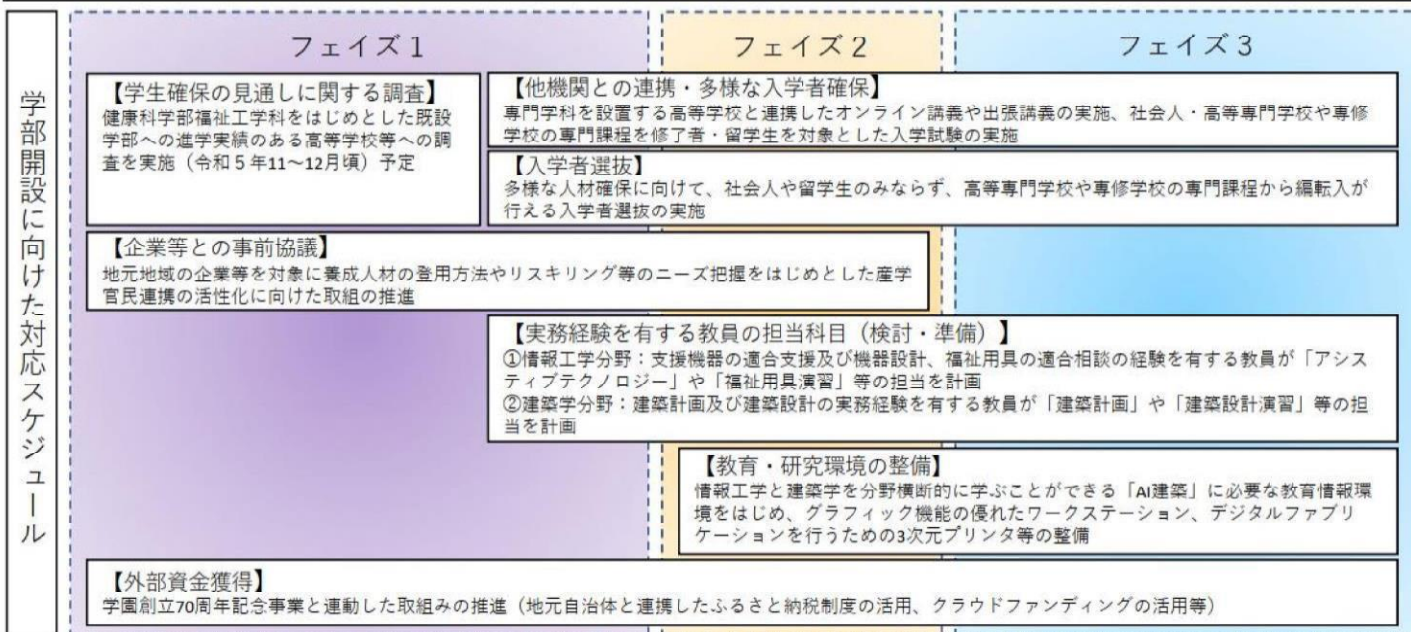


<コンセプト>

工学を主体とした学際的アプローチにより、一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる福祉社会の構築に貢献する。

<特長>

「ふくしの総合大学」として、工学分野の中で情報工学、建築学を中心に、年齢や障害の有無を問わず、誰もが自立した人生を全うできる技術開発など、超高齢社会において必要とされる技術を開発できる人材の育成に取り組む。



令和6年度 高大連携による『総合的な探求の時間』への支援

1 y 軸周りの回転体とデジタルファブリケーション

公立高校（普通科）の教科『総合的な探求の時間』（数学コース）において、y 軸周りの回転体とデジタルファブリケーションをテーマに連携授業を実施。生徒は、回転体の完成形を思い浮かべながら設計図（見取り図）を描き、その正誤を3Dプリントされた立体物で確認。

▶▶ 視覚的・体験的な学習機会を提供

実施フロー

① 回転体の完成形を思い浮かべながら設計図（見取り図）を作成

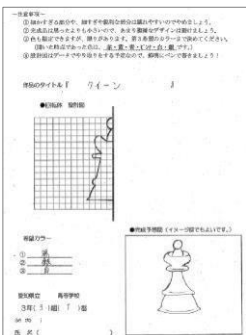
② デジタルファブリケーションの基礎

3Dプリンタでの造形方法・手順

③ 3D CADによる回転体のモデリング

3Dプリンタによる造形と造形後の作業

④ まとめ：デジタルファブリケーションによる多様な活動への参加



授業のスライド例・作業の様子



2 携帯電話の歴史からみる基盤技術の進歩

公立高校（普通科）の『情報』において、「ネットワーク」の章の理解を深めるために、携帯電話の歴史からみる基盤技術の進歩をテーマに連携授業を実施。生徒は、基盤技術の進歩がIoTや遠隔医療などの豊かな暮らしに貢献していること、『情報』が文理を問わず情報技術を使いこなすための基礎知識であることを学習。

▶▶ 身近なテーマから学びの動機づけを提供

実施フロー

① 移動通信システムの歴史（第1～5世代）

② 基盤技術の進歩と商用サービスの発展

③ Beyond 5G（6G）への期待



3 ビジネス・商業の場としての「空間づくり」

公立高校（商業学系）の特別プログラム「CAMPUS VISIT PROGRAM」において、高校での学びが大学での学びや実社会でどのように活用できるのかをリレー講義形式で実施。工学部からは、店舗やオフィスの空間デザインと生産性・収益との関係性について学習機会を提供。

▶▶ 大学での学びの動機づけを提供

実施フロー

① 経済系・工学系のリレー講義

② 建築系の学びの内容と想定キャリア

③ 生産性・収益性につながる空間デザイン



＜基本情報＞

改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部設置
設置等組織名：情報科学部ソーシャルデータサイエンス学科
入学定員：【R9新設】80名
所在地：愛知県豊明市

基本コンセプト

- 近年はビッグデータを活用できる環境が整ってきたことからデータサイエンスに期待と関心が集まっています。
- 一方、教育・保育の現場は、教員・保育士等の働き方やデジタル化の遅れを含め問題が山積しています。また、現代の子どものを取り巻く環境は「こころ」「からだ」「コミュニケーション」面の課題が顕在化しています。

情報科学部ソーシャルデータサイエンス学科では、ビッグデータを基盤とした統計学等の知識・技術を取扱して、子どもや支援者を取り巻く諸課題に情報科学の知見を活用し、子育て・教育を中心とした分野で幅広く社会貢献ができる人材を養成することを目指します。

一 探求する4つの領域

- マーケット・リサーチと教育マネジメント領域
 - DXの技術を活用して、あらゆる社会事象を科学的に分析し、我が国が目指す「誰一人取り残されないデジタル化の恩恵を享受できる社会を実現する」デジタル人材の育成を目指します。
- データサイエンスと子どものこころ・発達領域
 - 子どもの生活に関する諸課題（心の発達、貧困・格差の育ちへの影響、子どもの自殺予防等）について、データとフィールドワークによりその解決を目指します。
- データサイエンスとスポーツ・健康領域
 - 科学的知見に基づいた子どもの運動発達、介護予防と医療、スポーツ障害防止の探求により、健康教育のスペシャリスト養成を目指します。
- データサイエンスとコミュニケーション領域
 - 今後一層増加する外国にルーツを持つ子どもに対する日本語教育のあり方をデータをもとに確立することを目指します。
 - 言語領域の大規模データ、コーパスの活用、テキストマイニングなど、「言語」を科学的に探求します。

▼目指す将来像：データサイエンティスト、健康運動指導士、日本語教師、公務員、民間企業マーケティング、社会教育主事など

データとハートで

カリキュラム・イメージ



社会は、変わる。

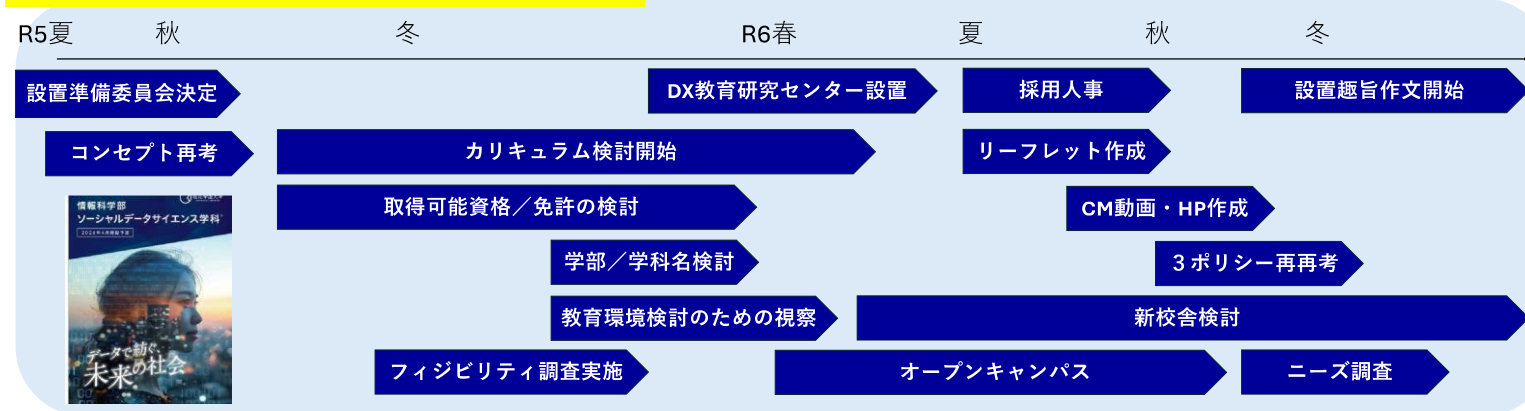
データ&ハートの新時代がやってくる

これからの時代において、データと感情・愛情が融合し、新たな価値や可能性が生まれます。人間とテクノロジーの融合によって、より人間中心の社会が形成され、幸福な社会が到来することを期待して、本学は情報科学部ソーシャルデータサイエンス学科を設置します。

桜花学園大学情報科学部の3つの強み

- 社会人が学びやすい環境
 - キャンパス内の付属幼稚園の活用等、社会人も安心して学ぶことができるリカレント教育の環境を整えます。
- 既設学部等との連携で多様な学びを実現
 - 本学が設置している保育学部（2025年度より教育保育学部）、学芸学部（2024年度より国際学部）や愛知県内の大学との連携により、資格・免許の取得を含む多様且つ柔軟な科目設定を行い、情報科学を基礎に教育・心理・健康・コミュニケーション等の幅広い学びの場を用意します。
- 海外教育機関との連携
 - 本学が提携関係にあるオセアニア地域の大学等や韓国・又松（ウソン）大学との連携をさらに強固にし、国際社会に対応する人材の育成が可能で。

採択から今日までの取り組みの流れ



文系・理系を問わない多彩な学び（広報資料より）

社会はデータで動き出す

近年、医療と関心が高まっているのが、データサイエンス。データを読み解くことで、社会に今までなかった新たな価値や可能性が生まれます。桜花学園大学は2024年度より情報科学部ソーシャルデータサイエンス学科を設置します。私たちの社会が抱えるさまざまな課題を解決するために、データサイエンスの知識や技術を駆使し、社会の発展や課題の解決に貢献します。

社会の発展や課題の解決、そこには人々の心や体、健康や生活の質、社会の基盤を支える重要な役割をもち、関与していくことが不可欠です。ソーシャルデータサイエンス学科では、文系理系を問わず、幅広い分野で活躍できる人材を養成します。課題解決に貢献できる人材を養成します。

01. 情報テクノロジーで健康を支える
医療も生活も元気に未来へ！

02. それぞれの「心」を育てよう！
可能性が広がる社会

03. 健康と生活の質を向上させる

04. これからの働き方を支える
コネクティビティ
プライベートも大切！

05. 健康と生活の質を向上させる

06. データで支えるコミュニケーション
グローバル社会に貢献しよう！

07. スポーツはデータであふれている
競い合えるプレーヤーも、もっと楽しむ！

特徴

- ◎文理融合のカリキュラム

元々の文系大学にある人材を活用して社会科学・人文科学分野とデータサイエンスの融合、「社会課題科目群」を設置して幅広い学びの提供
- ◎元女子大の強み

元々女子大であることの利点を活かし、女子学生も惹きつけるカリキュラムを編成
- ◎系列高校との連携

DXハイスクールに採択された系列高校で大学教員が授業を行うなど、系列高校との密な連携
- ◎企業との連携

先行して設置したDX教育研究センターを中心とし、PBLやインターンなど企業との連携
- ◎海外教育プログラム

海外の提携大学へ夏休み休暇等を利用して学生を派遣し、現地の大学で授業を受け、学生間の交流を行うなどの海外派遣プログラム

<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：**環境情報工学部**
入学定員：【R9新設】100名
所在地：三重県四日市市

環境と産業の先進都市「四日市」でグリーン・デジタル人材を育成する

「環境・防災先進都市」・「産業・交流拠点都市」を謳う「四日市」で、SDGsや地域循環共生圏の実現を目指すグリーン人材、新世代のデジタルメディアテクノロジーを自由自在に取り扱うデジタル人材、そして環境と情報の両領域にまたがるグリーン・デジタル融合人材を育成する。

理系学生の受け皿と出口戦略

理系を志望する生徒の受け皿として

- ✓三重県で理系学部（医療系を除く、以下同じ。）を持つ大学は国立大学1校のみ。理系学部を持つ私立大学は県内にない。
- ✓三重県の調査によると、工学分野への進学を希望する学生が多く、**県内の理系学生の受け皿が不可欠**。
- ✓高校生・保護者・学校に対して調査を実施し、具体的な分野を絞る。

産業界・社会が求める人材の育成

- ✓「**地域人材育成協議会**」を発足する。四日市市をはじめとした周辺自治体や地域の経済団体・学校・市民と意見交換を行い、**産業界・社会から求められる人材像を明確にする**。
- ✓地域人材育成協議会で見いだされた人材像をもとに、地元企業の成長戦略や地域、各業界の動向を調査し、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3ポリシーを具体化する。
- ✓産学官民連携を強化し、企業・大学間での採用・就職情報の共有や、インターンシップの充実をはかる。

入学者選抜・学生支援体制

多様な入試と学生支援体制の充実

- ✓大学での学修で求められる資質や能力を見極めるため、理系科目重視型の新設など、入学者選抜における受験科目・区分を見直す。
- ✓社会人・留学生**区分と学生支援体制を整備**する・女子学生に加え、大学進学率の低い三重県南勢地域等や離島を対象とした**多様な入試**。



グリーン・デジタルの融合

データサイエンスを基盤とした教育

- ✓グリーン・デジタル両分野のけん引に不可欠な**データサイエンス教育を重視**する。すべての学生にデータサイエンスの基礎を身につけさせる。
- ✓三重県の私立大学では本学が初めての認定となったMDASHを基盤としたデータサイエンス教育を展開する。

重視する教育研究分野と体制強化

- ✓グリーン分野は、SDGsや地域循環共生圏の実現を目指し、自然・産業・生活環境保全に加え、GX・DX、スマートシティに関する教育を強化する。
- ✓デジタル分野は、データやAIの活用、情報セキュリティ、XRや新世代メディア技術に関する教育を実施する。
- ✓「高等教育コンソーシアムみえ」などの枠組みを活用し、県内他機関との連携強化をはかる。
- ✓企業・行政経験のある**実務家教員を積極的に登用**し、実践的教育を行う。
- ✓研究開発でも地元の企業・自治体との連携を強化し、共同研究・受託研究などの規模・件数を拡大する。

本年度実施概要及び特徴ある取り組み

【地域人材協議会発足の検討】

これからの社会で求められるグリーン・デジタル人材を育成できる教育体制を構築するため、地域人材育成協議会において求められる人材像を洗い出す。この人材像に基づき、現行の環境情報工学部のカリキュラムを再点検し、学修目標およびカリキュラム編成を行う。これらの設定にあたっては、OECDによる高等教育の質保証ガイドラインを参考にする。

【入学者選抜体制の検討】

大学での学修で求められる資質や能力を評価するため、受験科目や受験区分を見直す。学習目標や教育カリキュラムに沿った評価項目を設定した面接試験や小論文試験を実施し、入学後に求められる能力を適切に評価する。令和6年度からは一般選抜に小論文型試験の導入した。社会人学生や留学生に加えて、大学進学率の低い三重県南勢地域等の過疎地や離島を対象とした入試や、外国にルーツを持つ生徒を対象にした入試区分を設けるほか、女子学生比率向上のための支援体制を整備を引き続き行う。

【他大学への視察・訪問】

他大学の学部立ち上げ及び運営などの成功事例を具体的なノウハウを学ぶ施設やカリキュラムなどの運用方法について把握することができた。学生募集や教員確保に関する課題についても問題事例を学ぶことができた。

訪問大学：愛知産業大学、大阪成蹊大学、武庫川女子大学、近畿大学、九州大学、下関市立大学

【新カリキュラム及び教員体制の検討】

三重県の有識者会議による調査において工学分野への進学を希望する学生が多く、理系学部に対する潜在的ニーズは高いと考えられる。そこで、これからのグリーン・デジタルの両分野をけん引できる人材を育成するため、現行の環境情報工学部のカリキュラムを点検し、検討を行った。データサイエンス教育に関しては、三重県の私立大学で最も早くに認定を受けたMDASH(数理・データサイエンス・AI教育プログラム)を基盤としてさらなる充実をはかる。

地域のニーズを把握し、実用的な研究が進められる13の研究室を掲げて、インターンシップ制度の充実とともに学生の実践的なスキル育成のシステム構築を検討した。

【環境情報工学部（仮称）の学びのひろがり】



【研究事例】

グリーンデジタル分野のスペシャリストを育成する

- 1)アーバンインフラストラクチャ
地方中核都市に在るわしい都市環境を創造するために必要なインフラ・ハードウェアに関する計画・設計・整備・保守について研究をすすめます。
- 2)ランドスケープ・デザイン
人・社会・コミュニティを豊かにするための都市づくりに向けにフィジカルとバーチャル両方からアプローチします。
- 3)スマート AI シティ
人工知能技術 (AI) と情報通信技術 (ICT) を活用しながら、都市の機能やサービスの効率化に向けた研究を進め、地域社会の豊かさへの貢献を目指します。
- 4)GXデータセンシング
センサーを利用して環境・人流・交通などの情報をセンシングし、得られたデータを活用した生産性の向上と効率化・予測分析・リスク管理など、様々な側面での価値を創造する研究を目指します。
- 5)コンピュータビジョン
画像セグメンテーション・物体検出・パターン検出・顔認識などコンピュータビジョンを活用した研究を展開し、製造・エンターテインメント・医療など多岐にわたる分野での応用を追求します。
- 6)ソフトウェアインノベーション
ソフトウェアやアプリケーションの開発および先進的な情報技術を活用し、地域の課題を解決するためのシステム応用研究を行います。
- 7)スマートアグリエンジニアリング
ICT、IoT、データセンシング、ドローン技術、栽培環境自動制御などデジタル技術を駆使したスマート農業の可能性を探り、これからの都市と農業の関係を見据えた研究開発をすすめます。
- 8)エコロジカルシステム
温暖化対策や生物多様性の保全などの地球環境問題から身近な自然や生物の保全まで生態系と自然環境に関する問題に取り組みます。
- 9)アグロフィジカルサイエンス
世界規模の水資源問題や海洋環境汚染問題から生活に密着した河川環境の保全や生活排水の適正管理など、水に関する諸課題を取り扱います。
- 10)シティライフ&ヘルスマネジメント
健康で充実した都市生活を送るために生活環境の保全と向上を目指し、生活環境の向上、生活環境問題の予防と対策、省資源、省エネルギーに関する調査研究をすすめます。
- 11)メディアテクノロジー
メディア技術に焦点を当てた学びを展開します。IoT、CG、MRなど先端メディアに関する知識と技術を修得しエンタメ・製造・医療・教育の現場などの業務効率化に向けた応用研究を目指します。
- 12)ホリスティックデザイン
空間や環境、生活用品など広範な対象物を、工学と芸術の両方の視点から捉え、デザインを追求します。多様化するニーズの対応や社会的な課題解決をもつくりからアプローチすることを目指します。
- 13)メディアコミュニケーション
地域のメディア機関や四日市市と連携し、実践的な学びを通して、情報収集・編集・発信・分析などメディアコミュニケーションに必要な各ステップの理論や技術、データ分析の修得を目指します。

<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：食農科学部（仮称）
入学定員：【R9新設】160名（予定）
所在地：京都府京都市

<特徴・コンセプト>

食と農について生産から加工・流通・消費に至る様々な部門を対象とし、持続可能な環境調和型食料システムの構築とグリーントランスフォーメーションの推進に資する人材を養成する。

<社会のニーズを踏まえた学修目標および学生確保の見通し（申請要件2③⑦）>

「農林水産研究イノベーション戦略2022」に、スマート農林水産業の早期実装、資源循環の追求、持続可能で健康な食の実現が掲げられ、技術革新・労働力不足を背景としたスマート農業の実装化、カーボンニュートラル達成、バイオビジネス、食糧安全保障など、食と農を取り巻く課題解決に取り組む人材の養成が強く求められている。これを踏まえ、新設学部においては、持続可能な環境調和型食料システムの構築とグリーントランスフォーメーションの推進に資する人材養成を目標とする。また、本学が近畿圏の女子高校生を対象に実施した志願動向調査や、外部機関の調査データにおいても、農学系に一定のニーズが継続的に存在し、上記目標に関連する分野で活躍する女性人材の養成・拡充も目指す。

<特定成長分野の人材を育成するための教育内容・体制・環境整備・学外との連携・多様な人材の確保（申請要件4⑤⑫）>

教育内容として、生物資源学、環境生物学、農業情報学、農業生産技術、生物化学、遺伝学、微生物学、食品科学、食料・環境経済学、政策学等の科目配置を想定している。教員組織として、学術面の業績を備えた教員に加えて、実務経験のある教員を配置して実践的な科目を展開する他、地域や産業界との共同研究、実務経験を活かした学生のキャリア支援等も促進する。行政機関、組織・企業等との連携について、既存の取り組みの拡充と新規展開を積極的に推進し、食の生産・流通、栄養・生理機能成分の分析、スマート農業、商品開発、素材研究、人材育成等に関して、PBL型授業、インターンシップ等の実施を計画している。例として、行政・企業の提示する課題に対し、双方のリソースを駆使して課題解決のための提言・成果物に繋げる。これに対しフィードバックを重ねながら、学びを深めると共に成果物の精度を高め、産官学連携によるシナジー創出を目指す。多様な入学者の確保に向けた取組としては、基礎学力のみならず個性や適性、意欲などを幅広く評価するために、評価の多元化と受験機会の複数化を行い、個々の得意分野で力が発揮できる選抜を実施する。



<外部資金の獲得（申請要件11）>

上記地域や企業等との連携活動を推進し、受託研究費の獲得に取り組むとともに、科学研究費補助金についても新学部として積極的に申請する体制とする。また、恒常的な寄附金制度の構築に取り組むとともに、京都市がふるさと納税を通じて大学と地域の連携を支援する活動にも積極的に参画する。

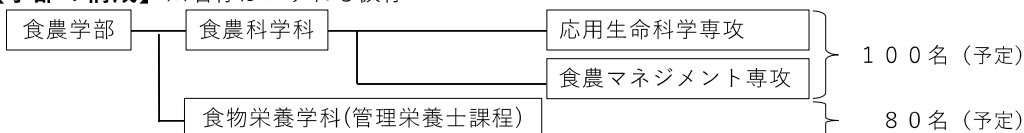
京都女子大学（令和5～6年度の取組）



【基本情報】

改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：食農科学部（仮称）
入学定員：【R9新設】180名（予定）
所在地：京都府京都市

【学部の構成】※名称はいずれも仮称

企業・自治体連携
— 京都府久御山町と協定締結 —

令和6年3月27日に、京都府久御山町と本学との間で農業分野での女性の活躍推進などに取り組む協定を締結した。
今後も、企業や自治体との連携を進めるべく、調整を進めている。

養成する人材像
— カリキュラムの検討 —

食と農全般に関する基礎的知識、倫理観と実践能力を身につけ、実社会で役立つ生命科学や、農産物の生産から流通並びに環境配慮を担うことのできる人材と、農学に対して深い理解を持った食と栄養の専門家を育成するべく、外部有識者協力のもとカリキュラムの検討を進めている。

海外の大学との連携

— タイ王国カセサート大学
との協定締結(手続き中) —



櫻井特命副学長が長年にわたるタイ王国への学術的貢献が評価され、カセサート大学から名誉博士号（林学）を授与された。同学とは教育・学術交流を進める協定を結ぶ手続きを進めている。
今後も、国内外の高等教育機関との連携を構築・深化し本学の機能強化を進める。

新校舎建設

— 森に還すプロジェクト —



新学部の学び舎となる新校舎の建設計画を策定した。
山を切り開いて造成されていた土地に校舎を新築し、屋上緑化や壁面緑化、都市型農業などを本学園幼小中高大の授業で扱いつつ維持管理できるようにすることで、新たな「京女の森」となる校舎を育てていく。

女子学生確保

— 女子高校生への意向調査実施 —



京都女子高等学校の生徒に意向調査を行うとともに、コンサルティング業者に委託して事前マーケティング調査を実施した。
市場環境と学生のニーズをより深く把握し、持続可能で多様な学生募集方針の検討を進めている。

教員人事

— 学部長予定者の確定
及び特命副学長就任 —



令和6年7月17日開催の大学機能強化支援事業推進委員会にて食農科学部（仮称）の学部長予定者が確定した。
また、令和6年9月1日付で本学食農科学部（仮称）の開設備に就任いただくため、櫻井克年氏に特命副学長の職に就任いただいた。

<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：既存学部における学科の新設
設置等組織名：健康科学部食品生命科学学科（仮称）
入学定員：【R9新設】40名
所在地：京都府京都市
右京区西京極葛野町



<概要>

建学の精神「仏教精神に基づく女子教育」のもと、「真実心（思いやりの心）」を校訓とする本学は、環境配慮の心とバイオ技術を兼ね備えたグリーンスキルをもって世界の食料問題を解決する人材を育成すべく、「食品生命科学科（仮称）」を開設する。ここでは、バイオ技術による低環境負荷の食品生産・調達技術開発のみならず、食品の流通・消費に至るデータ連携（業界DX）を可能にするスマートフードチェーン全体を学ぶカリキュラムを展開する。このため、先進的な取組を展開する地元地域を中心とした食品関連企業と連携し、インターンシップ制度等も充実させる。また、女子中高生を対象とする教育連携、女子理系進学率が高い米国の大学等と連携することで、我が国の課題である女子の理系進学率向上に貢献する。そして、理系人材の卒業時における国際的質保証としてJABEE認定をめざす。

他機関との連携や多様な入学生の確保

- 女子中高との教育連携（JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」）R2、R4年度採択
- 大学進入学力試験（JPU）を活用した留学生へのアプローチ
- 社会人の確保（文科省「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」）R3年度採択
- 早期履修制度による高校生へのアプローチ
- 大学等連携推進法人（連携開設科目の設置）の推進



※写真はJSTプログラムから

教育・研究環境の整備

- バイオ研究に必要な化学発光撮影システム、超低温フリーザー、人工気象機などを備えた実験設備の整備
- ペプチドシーケンサや高速液体クロマトグラフィー（HPLC）等、大型かつ維持管理にハードルのある装置は、近隣の公的支援機関を活用
- 外部資金獲得による教育研究環境の充実



※写真は公的支援機関における学生実験の様子

環境配慮の心

業界DX

バイオ技術

グリーンスキルを有する女性の育成

解決方法

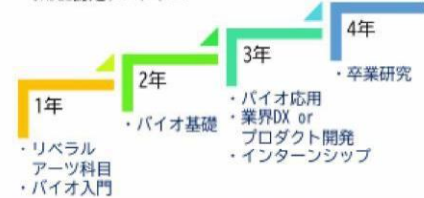


<地球規模の課題>

世界的人口増による食糧難
温室効果ガスの多くを占める農業・畜産業

カリキュラムと質保証

- 校訓「真実心（思いやりの心）」を基軸とした、環境配慮の心とバイオ技術を有するグリーンスキル人材の育成
- 食品流通プラットフォームや業界DXまたは、新しいプロダクト開発を目指す
- 女子理系進学率の高い米国の大学等と連携
- JABEE認定プログラム



特定成長分野の人材を必要とする企業との連携

- 「京都フードテック基本構想」（和食文化と最先端技術（フードテック）を活用し、京都府内の農林水産業・食関連産業の課題解決と産業の振興を図ることが目的）への参画
- 同基本構想参画企業との連携（インターンシップ、講師招聘等）



令和6年度の活動

学研フードテック共創プラットフォームへの参画

学研フードテック共創プラットフォーム

▶国内外の大学や研究機関、企業や行政等が「産学官」の、世界的なネットワークを形成し、連携・研究チームを組成し、オープンで幅広い情報交換やコラボレーションを行うことにより**食に係るイノベーションを推進**する組織

2024年7月12日：「発酵」をテーマに情報交換会開催
→新学科のための情報収集と連携企業開拓のために参加

京都フードテック研究連絡会議への参画

京都フードテック研究連絡会議

▶全分野横断型の産学公連携の研究プラットフォーム
京都フードテック基本構想実現のために設立
…京都の食文化や高い栽培技術と最先端技術を融合した「**京都ならではのフードテック**」に取り組み、農林水産業を含む**食関連産業の課題解決**を目指す

2024年8月29日：第1回セミナー＆交流会開催
→新学科との関係を構築するために参加

企業（OP Bio Factory）への訪問

オーピーバイオファクトリー株式会社

▶生物資源収集や微細藻類パヴロバを用いた商品開発・販売
各地の海を知る地元のダイバーや漁業者との強ネットワーク、大学との共同研究により海洋生物資源を収集
世界で初めて微細藻類「Pavlova（パヴロバ）」の高密度大量培養に成功→食品、サプリ、コスメなどの製造・販売

2024年8月19日訪問



生物資源から製造したサプリ（左）とパスタ・ドレッシング（右）



海洋深層水（コンタミが少ない）を使用したバイオリアクタ



1000株以上の微細藻類サンプル

米国3大学の視察



…大学院を主体として研究と教育を行っている総合大学の視察

…学部を主体として栄養科学の教育と研究を行っているリベラルアーツカレッジ
→規模の上で参考となる大学として視察

2024年11月19日・21日

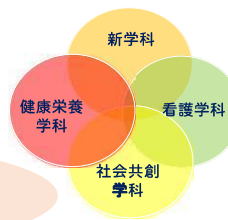
～3大学視察で得られた共通認識～
米国におけるフードテック教育・研究の潮流
…土台となる**学術**と**食の安全性確保**を重視

- 生産量を増やすだけでなく**健康的な食物**を作る
→単に生産量を増やすには組み換え作物は有用しかし、本当に健康に良いのか？
→本当に健康に良い食品（例えばオーガニックフード）の供給課題：高価（アメリカでは安ければ1.2倍で買える）
一部だけオーガニックでは不十分（規制・科学的知見）
- 食の**安全性確保**（特に輸入品）
→**正しい食品知識**のデータベースを構築（OSU）
- Food-handling（取扱）＋processing（加工）
→作る人だけでなく**扱う人にも正しい食品知識が必要**

京都光華女子大学においては

他学科との融合をもとにした学科・カリキュラムづくりを議論しながら進めていく

ライフスパンだけではなく**ヘルスパン**を伸ばす**フードテクノロジー**





改組予定年度：令和8年度

改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）※

所在地：京都府京都市

設置等組織名：デジタルメディア学部デジタルメディア学科（入学定員100人）

工学部ロボティクス学科（入学定員80人）

デジタルメディア学部デジタルメディア学科通信教育課程※（入学定員180人編入学定員180人）

※デジタルメディア学部デジタルメディア学科通信教育課程のみ、当該大学が授与する学位の分野の変更を伴います。

新学科設置を起点とした全学的改革により、社会が求める教育を広く届けることをめざす

社会ニーズ

【人材・受験需要】

◆ 社会全体での情報系人材の量的不足(2030年に16万〜79万人不足) ◆ コンテンツ市場拡大、メディア芸術活用等に向けたメディア人材需要高まり

◆ 人手不足等を背景とした業務自動化ニーズや世界的なロボット市場の拡大に向けた人材需要高まり ◆ 情報系・機械系学部学科への受験ニーズ

ソフトウェア・情報サービス関連企業や機械・部品メーカー、地元企業等と求める能力・カリキュラムについて協議

新たな学科設置

デジタルメディア学科 (通信教育課程併設)

社会実践力・AI等の情報工学の基礎的知識・技術および、画像処理技術やデザイン技術を身につけ、メディアセンスを兼ね備えたエンジニアや、情報工学の体系的知識・技術を持ったクリエイターとして活躍する人材を養成

【学問領域】

● メディア技術系領域 ● メディアデザイン系領域

社会実践系領域（デザイン思考やPMなど）／AI・DS・CSの基礎・基盤領域／クロスオーバー領域（社会科学等他分野の知見）

【教員体制】

実務経験者を含む ● メディア技術系・メディアデザイン系教員

ロボティクス学科

社会実践力および機械工学、電気電子工学、計測・制御工学、情報工学などの複合的知識・技術を身につけ、機械や電機関連産業等において設計・技術者、生産・工程管理者、SEなどとして活躍する人材を養成

【学問領域】

● 機械工領域 ● 電気電子領域 ● 計測制御領域 ● 情報領域

社会実践系領域（デザイン思考やPMなど）／AI・DS・CSの基礎・基盤領域／クロスオーバー領域（社会科学等他分野の知見）

【施設・設備】

両学科教育研究に必要な設備を備えた新棟（スタジオ・機械工作室等）

【教員体制】

実務経験者を含む ● 機械工系・電気電子系・計測制御系・情報系教員

全学を巻き込む発展的な展開

学生受入（多様な学生の受入）

● 留学生・地方学生・社会人の受入促進

日本の強みであるゲーム等の教学充実&広報、通信教育課程設置、初年次教育強化（通信教育メディア授業コンテンツも活用）等により、上記学生の受入を促進

● 理系女子学生の受入れ促進

併設校を含む女子高校生への本学女性教員による説明会をはじめ、女子向け広報を強化する

● 入学者選抜の設計

文系理系、国籍、年齢等の多様な学生受入に向けた入学者選抜制度設計および、入学後の支援体制を強化

教学

● 通信教育授業コンテンツの発展的活用

メディア授業コンテンツを通学課程へ展開し、柔軟な履修スケジュールの実現による留学等を含めた課外活動の推進

● 海外大との連携による教育の展開

メディア授業等を活用した海外大との授業コンテンツの相互提供や、海外大で専門分野を学ぶ留学プログラムの設定

● 企業等との連携による教育の展開

企業の実務家を招いた講義や、企業等から提示された課題に対する施策立案・提案を行うPBLを展開

● 全学的な文理横断教育の推進

新学科教学リソースを全学に展開し、文理横断教育の推進

研究推進

● 全学的な情報研究推進

本学の情報領域が大幅に拡大するなかで、情報関連研究を推進する機能を持つ「情報学教育研究センター」を設置。自治体や企業等とも連携し、本学の情報関連研究をさらに推進し、科研費等の外部資金も増加させる。また、本センターでは、教育研究リソースを展開した社会人教育（リカレント等）も展開する。

新学科設置準備

デジタルメディア学部

デジタルメディア学科

コンテンツ大国は新時代へデジタル社会をリードする。

工学部

ロボティクス学科

新時代の救世主はAIとロボットロボティクス技術を駆使して未来を実現。

ABOUT

日本のゲームやアニメ、音楽といったメディアコンテンツは、世界中で絶大な人気を誇っています。情報技術を基盤に、メディアコンテンツの制作技術やCG、画像・音声処理、AIなどのメディア技術を修得。次世代のコンテンツやシステムを創造し、多くの人を熱狂させるクリエイターやITエンジニアをめざします。

FEATURES

01_情報技術を基盤にゲームやアニメ、音楽などのコンテンツ制作やメディア技術を学ぶ多彩な4つのモデルコース

02_情報系の様々な資格取得に対応

03_京都橘のクロスオーバー学習

ABOUT

世界有数の産業ロボット生産国である日本。ロボティクス学科では機械工学や情報工学、電気電子工学、計測・制御工学に加え、先端AI技術にも精通し、これからの機械・ロボット産業や情報産業で活躍するスペシャリストを養成します。

FEATURES

01_先端AI技術から機械系、情報系まで。社会で活躍できる思考と技術をイチから体系的に学ぶ

02_実験や企業連携などリアルで実践的な学び

03_京都橘のクロスオーバー学習

04_先端的なロボティクス

多様性を支える取り組み例

入学選抜における科目の見直し

・多様な学生の受入れをめざして、入学者選抜の方向性などを確認

グローバル教育の拡充

・学部学科コンセプトや国際連携方針の確認

・関連科目等を含むカリキュラムの検討

社会人学生の受入れ強化に向けた取り組み

・「情報学教育研究センター」の設置

・京都橘大学情報学リスクリング講座で770名が受講登録

女子学生の確保に向けた取り組み

・女子学生を対象とした入試広報施策の検討

・女子学生を意識したHPやパンフレットの作成、広報活動の展開

地域の初等・中等教育段階との連携

・地域の初等・中等教育機関との連携に向けた具体的な準備

企業や自治体と連携した科目(PBL等)の整備・実施

・学部学科コンセプトや企業連携方針および関連科目等を含むカリキュラムの検討

38

※以下は、2023年7月時点
の内容になります。

- 企業
製造業 情報通信業 建設業 など
- 官公庁
都道府県庁 市役所 など
- 大学院

令和5年度選定 支援1

大阪電気通信大学

基本情報

学校コード：F127310108045

改組予定年度：令和6年度

改組内容：学部の新設

(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)

設置等組織名：建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

入学定員：【R6新設】150名

所在地：大阪府寝屋川市

社会ニーズに応える組織形成

建築デザイン学部は以下のコンセプトから社会ニーズに応えるべく教育を行っている。

- ・ **建築専攻**：資格獲得を重視した実学建築教育。
- ・ **空間デザイン専攻**：建築教育と情報教育との融合によるデジタル人材育成教育。

両専攻は共通のカリキュラムで学び、必修科目、選択科目が違ふことで各専攻の個性を持ちながら、建築DXに関するリテラシーは共通にもつ人材を教育する。

地域連携・産学連携

- ・ 寝屋川市と建築分野、都市計画分野において、地域情報と大学の資産、人材を活用して、多様なまちづくりに関する連携プロジェクトを行うための協議を始めた。
- ・ BIM 周辺ソフトウェアの開発企業とも連携し、業界の現場で利用されているソフトウェアの専門家を外部講師として登用するなどし応用知識・技能を修得できる科目を開講する計画をしている。
- ・ 追手門学院大学と連携し茶室「松籟庵」の3D計測しデジタルアーカイブ化。
- ・ 帝塚山大学と連携し「當麻寺護念院所蔵中將姫像」を3D計測し、お身代わり像（3Dプリンター製）を製作。



(1) 多目的製図室

(2) 東京ゲームショウ2024
ブースデザインプロジェクト

参考画像

豊富な課外活動

今後の地域連携、産学連携プログラムに貢献できる人材、卒業後に即戦力として建築・デザイン業界に人材を育成するため、1年生から課外活動として実践的なプログラムを提供している。

- ・ 東京ゲームショウ2024 ブースデザインプロジェクト（実施済み）⁽²⁾
- ・ 大学国際交流センターデザインプロジェクト（現在進行中）
- ・ 女子ロッカー室デザインプロジェクト（計画中）

建築・デザイン学部

建築・デザイン学科

建築専攻

- ・ BIM
- ・ 建築計画
- ・ 建築構造
- ・ 建築設備
- ・ 都市計画
- ・ 建築史

建築に関する実利に基づいたより専門性の高い内容を学ぶことができる。BIMを取り入れた先進的なプログラムが特徴。建築士受験対策のための講義が豊富。

空間デザイン専攻

- ・ 建築デザイン
- ・ 空間デザイン
- ・ 都市デザイン
- ・ アート
- ・ CG/VR/メタバース
- ・ 情報処理/建築・都市DX

様々な分野の視点から、デザインをするために必要な基礎知識や考え方を総合的に学ぶことができる。クリエイティビティを高める知識を幅広く学べるのが特徴。

BIM※、CG など建築DXリテラシー教育

※Building Information Model

実社会とつながる豊富な課外活動

建築DXをけん引できる人材育成

建築DXをけん引できる人材育成

- ・ BIMの基礎教育に加えて、建築の各工程（計画、設計、施工、保守）においてBIMを活用したシミュレーションを行うことができる高度な専門人材の育成。

※2025年度からはその基幹授業である「コンピュータ製図実習」、2026年度から「Building Information Modeling」などの授業科目が開始。

- ・ BIM以外の建築業務のDXをけん引できる人材の育成。（3DCADやCGアニメーション、画像処理、などデジタルによる様々な表現手法を学ぶ。

※基幹授業 2024年度「デザイン基礎実習」開始済み、2026年度「サイバー空間創成」「コンピューショナルデザイン」開始

- ・ 多目的製図室⁽¹⁾をコンピュータグラフィックス、仮想現実などのデジタル空間の設計にも活かせる多目的製図室としての使用するための整備を行う。

多様な入学生確保

入試体制

- ・ 既存の入試：帰国生徒、外国人留学生、社会人入試
- ・ 新たに「日本留学試験」を活用した入試制度を導入。
- ・ 文系入試（外国語、国語）を導入。
- ・ 2026年度入試より、女子特別推薦入試の導入を決定。

入学後の支援

- ・ 数学や物理学の学習について支援体制スタディラボを設置している。
- ・ 女子学生が快適に過ごせるように、女子在学生によるキャンパスデザインのプロジェクトを計画している。
- ・ 寝屋川キャンパス国際交流センター整備。

< 基本情報 >

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：理工学部
入学定員：【R7新設】200名
所在地：大阪府茨木市



< 教育内容 >

各分野の基礎的応用的な科目に加え、**1年生から実験科目**や、データサイエンス・プログラミングなどの**デジタル時代に必要な授業科目**を展開し、特定成長分野や日本の伝統的なものづくり人材の育成にも寄与。また、実務経験のある教員による授業科目も設置し、**実践的な教育**を実施。

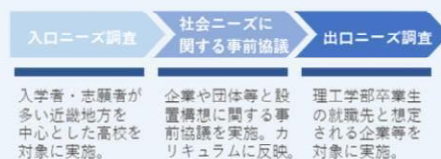


< 多様な入学生の確保 >

多様な入学生を受け入れるための入学選抜の方法を検討。女子学生の確保に向け**女子高校生への積極的なアプローチ活動**を実施。また、地域の初等中等教育段階の学校と連携し、**地域の高等学校への出張授業や高校訪問等**を実施。

< ニーズ調査・事前協議 >

高校生を対象にした**入口のニーズ調査**、企業・団体を対象にした**出口のニーズ調査**を実施。さらに、**一部の企業・団体とは設置構想に関する事前協議**を実施し、社会ニーズを踏まえた体系的なカリキュラムを構築。



< 特徴・コンセプト >

理工学部を新設し、文理を問わない“文理を超えた学び”の実現を目指す。理工学部では、各分野の専門領域に係る教育研究から**基本原理の理解と基礎的な技術力、問題解決能力をもって社会に貢献する人材**を育成。



< 教育の質保証 >

教育の質保証として、**一定水準に満たない学生への学習指導**や、基礎学力の定着・正課科目の補習などの**リメディアル教育**を実施予定。また、他大学との**単位互換制度**を活用した教育連携、企業への**インターンシップ**等により**教育の高度化**を図る。さらに、教育研究環境の充実に向け、**理工学部専用棟、設備・機器の整備**を実施。



< 外部資金の獲得 >

経済団体との関係性および学内の産学連携体制を強化し、**企業との共同研究を促進**。加えて、**ステークホルダーから寄附を募る**ことで、外部資金の獲得を目指す。

2024年度までの取組



多様な入学生の確保

入学選抜における科目の見直しや女子学生の確保の実施。また、これまで文系学部だけの大学だったため、初めて工業高校への訪問を通じた志願者数増に寄与する取組も実施。新たな入試科目として、理科や数学ⅢCを導入。理工学部長着任予定者による高校訪問も実施。

< 具体的な取組 >

- ✓ 特設サイトの開設
- ✓ 女子高への訪問の実施
- ✓ 工業高校への訪問の実施
- ✓ 特別入試の実施



研究支援体制の強化

総合大学として研究活動を組織的に推進する役割を担う研究センターを新設。新たな研究支援制度の運用を通じて、研究成果の創出と社会実装を加速することにより、**グラント獲得と本学のレピュテーション向上**を促し、社会貢献を図る。合わせて、外部資金の獲得にも寄与。

< 具体的な取組 >

- ✓ 産学連携オフィスの高度化
- ✓ 共創的研究推進センターの設置
- ✓ 分野をまたいだ研究助成制度の新設（共創的研究奨励費制度）



教育の質保証

入学前教育やリメディアル教育の検討をスタート。理工学部独自の内容を新規で作成し、入学前からLMSを利用することで大学での学びにスムーズに適応することを目指す。また、学びの環境を高度化するために、理工学部の専用棟への改修工事や、教育・研究に使用する実験機器などの整備を実施。

< 具体的な取組 >

- ✓ 理工学部にて特化した入学前教育
- ✓ リメディアル教育
- ✓ 理工学部専用棟
- ✓ 設備・機器の整備

<基本情報>

改組予定年度：令和8年度
改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名：理工学部 環境・エネルギー工学科(仮称)
入学定員：【R8新設】40名
所在地：兵庫県神戸市東灘区

社会における人材ニーズ

経済と環境の好循環を同時に創出し、グリーン社会を実現するためには、革新的なイノベーションをもたらす材料が不可欠であり、産学官共創による迅速な社会実装や新たな価値創出に資する材料の革新を担う人材の育成が必要

理工学部の実績

- ・「環境・資源科学」と「エネルギー科学」に学科レベルで注力してきた教育実績
- ・カーボンニュートラルに貢献するイノベーションを創出する「エネルギー変換材料研究所」の研究実績
- ・学問・研究分野を網羅的にカバーする学科が連携・融合する教育・研究体制

新設学科構想の検討体制・取組内容

新学科設置に向けて、「環境・エネルギー工学科（仮称）設置検討委員会」を設置。以下の取組をもとに大学院教育も視野に入れた「環境・エネルギー工学科設置構想」を検討。

■新学科設置構想に関する主な取組内容

- ①複数企業との事前協議
- ②大学都市神戸産官学共創プラットフォームの活用
- ③教学アドバイザー・ボード*における協議
- ④系列校や近隣の高等学校でのヒアリング・入学意向調査
- ⑤本学に関心のある層（指定校推薦を依頼している高等学校、オープンキャンパス参加者等）へのアンケート実施と結果の検討

- ・学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成、大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜の設計
- ・研究活動の集約化による外部資金獲得強化

*本学における教育の質向上を目指した取組を推進するために、各界で活躍している卒業生を中心に教育研究活動について提言を行う組織

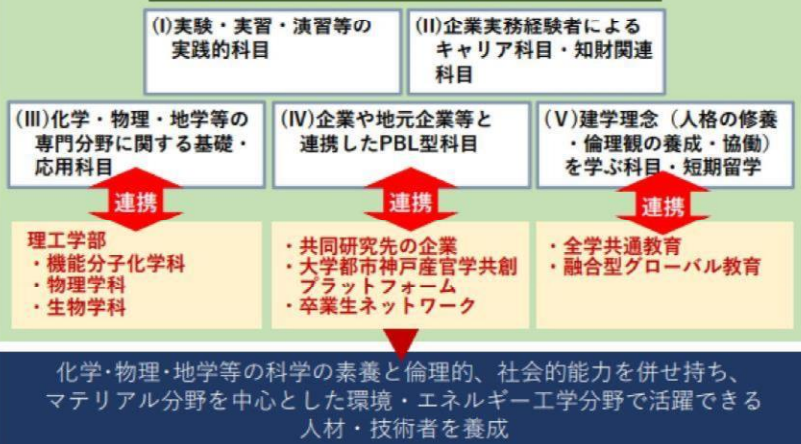
「環境・エネルギー工学科」（仮称）の特徴・コンセプト

グリーン社会を実現し、経済と環境の好循環をもたらすため、理工学部における教育・研究実績の充実・発展を図り、環境・エネルギー工学分野で活躍できる人材・技術者の養成を目的とした「環境・エネルギー工学科（仮称）」を設置。

■研究実績の一例（エネルギー変換材料研究所）



新設学科の教育内容・カリキュラム編成



●本年度までに実施済みの取組

① 企業へのニーズ調査および教学アドバイザー・ボードでの意見収集

材料革新力を備えた人材の輩出を目指すにあたって、企業へのニーズ調査および教学アドバイザー・ボード*を活用し、社会ニーズの把握と本学科が育成する人材像を明確にした。特に「基礎的な力を体系的に身に付ける科目構成」や「実践的な学び（PBL型科目）の経験」が重要視されている点を踏まえて、基礎研究で本質を探究する「理学」と、技術を活用してより良い社会をつくる「工学」の融合ができる教育内容やカリキュラムを策定した。具体的には、化学・物理学・地学の基礎的な内容を踏まえて、グリーン関連産業で活躍するために必要な環境・エネルギー・資源分野の専門知識を身に付けられる講義科目と実験科目を1年次から段階的にバランス良く配置し、4年次には地元企業等と連携した課題解決型科目（PBL科目）を通して実践力を修得できるカリキュラムとした。

② 学部生、大学院生、教職員が集い・憩い・交流する拠点となる新たな理系棟を竣工

今後の人材育成に必要な仕掛けとして、「多様な個性が触れあう学びの交差点」をポイントに据え、基本の設計を行った。具体的には、専門分野を超えた交わり、社会との交わりをコンセプトに、1・2階は産学連携の玄関口としての役割や、学部横断を具現化することを目的として、ブリッジで既存建屋と接続し、講義室や展示スペース、プロジェクトルーム、オープンラボなどを配置する。また、3・4階は環境・エネルギー工学科の学生実験室や専門実験室、教員研究室、さらに研究室ラウンジやサイエンスラウンジを配置し、分野を超えた融合が生み出す新しい学びを創造する。

③ 新設の環境・エネルギー工学科を核とした進化型理系構想の展開

新設する環境・エネルギー工学科を核として、本学理系学部・研究科全体が特定成長分野を中心とした社会ニーズに一層積極的に対応する方向へと進化する「進化型理系構想」に取り組んでいる。新学科が扱う環境・エネルギー・資源に加えて、宇宙、量子技術、新素材、AI・データサイエンス、医療・創薬など、本学が備える幅広い分野に展開を広げることにより、大学・高専機能強化支援事業への取組をより力強く推進するとともに、各分野の連携・融合を促進して、現代・未来の社会に貢献する高度理系人材の養成に向けた教育・研究力の発展・向上を目指す。

（進化型理系構想：環境・エネルギー工学科の新設を核とした理系3学部（理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部）の学びを発展させ、それぞれの専門領域で、理学（基礎）+工学（応用）の教育研究を一層強化するかたちで、高度理系人材の養成に取組む構想）

●本年度中に実施予定の取組

- ・女子学生の確保および志願者数増に向けた入学者選抜制度の設計を行う
- ・大学都市神戸産官学プラットフォームを活用して新設学科の周知を行い、①認知と関心・理解の向上、②地域企業との共同研究の推進、③学生の地元企業への就職促進、④神戸市内の高校生・中学生の進学促進に向けた連携基盤づくりを行う
- ・理工学部学科新設記念 進化型理系シンポジウム（2025年3月8日、甲南大学岡本キャンパス）を開催し、新設の環境・エネルギー工学科を核とした進化型理系構想の周知を行う



〔2027年竣工予定の新理系棟（イメージ図）〕

☞ CHECK !!



〔進化型理系構想 特設サイト〕



<基本情報>

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部設置（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名：環境共生学部環境共生学科
入学定員：【R7新設】120名
所在地：兵庫県西宮市

<新設学部のコンセプト>

自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性になる！
身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今さまざまな環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育成します。

<教育内容>

冒険、発見、学び、発信

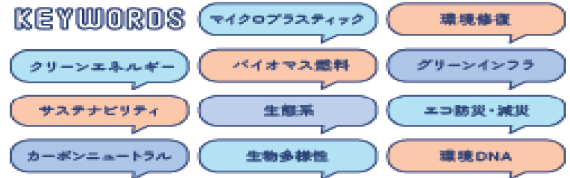
周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。

<申請要件>【特色】

- 十分な学生確保の見通しを備えた計画
 - 本学既設の工学分野を有する学部・学科の入学志願状況を踏まえ、**工学分野への女子学生の進学ニーズ**を把握。今後、保護者、高校・予備校関係者、高校生を対象にアンケート調査を実施するとともに新学部構想を周知すべく各種メディアにおいて広報活動を展開。
 - 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえた学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成、入学者選抜の実施等に係る計画
 - **フィールドワーク**や企業等と連携した課題解決型の**社会連携プロジェクト科目**を1年次から順次展開。
一般選抜や学校推薦型選抜のほか、確かな学力と多様な資質を持った受験生を受け入れる**多面的評価入試（MUKOJO未来教育総合型選抜）**を実施する。
 - 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画
 - 自然環境や環境整備保全関連施設の観察を通して独自に問題点や課題を設定して学習設計を行う。
新設する「**プロジェクトルーム**」での共同作業や研究室を巡る**ラボローテーション**を通じて実践力を養う。
 - 実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画
 - **バイオマス発電や新素材開発経験**、野生生物の生態調査といった領域において企業等で実務経験のある教員を複数配置する。
 - 社会において具体的な人材ニーズが現に存在、又は、十分な見通し
 - 今後、成長が期待される環境分野で専門性を備えた課題解決力で社会貢献できる人材の育成を目指す。設置構想について地域の酒造メーカー等と協議。
 - 寄附金、研究費等の外部資金獲得に係る計画
 - **科研費の採択件数拡大**のため、補助金申請に精通した専任教員が講師を務める「**KAKEN塾**」を学内で開講。
その他、若手・女性研究者の支援や**組織横断型研究プロジェクト**を形成し、大型研究費の獲得を目指す。
 - 自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画
 - **奈良女子大学と連携**して工学分野についての単位互換や授業科目の共同開設、共同研究や共同FD、教員や学生の交流を推進。
多様な入試制度の実施と学内施設（保育ルーム、国際寮）の整備
- 【特色】** **JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム選定事業を活用した女子生徒向けの探求心の養成と理系進路選択促進の取組を実施。**
さらなる連携先の強化・拡大



KEYWORDS



令和6年度 理系女子学生 確保に向けた取り組み

地球に優しくって
何をすればいい？
一緒に考えませんか？

特別講演：国分 太一氏
(株式会社TOKIO 副社長)

武庫川女子大学 環境共生学部 開設
記念シンポジウム

●開催日時：2024年7月21日 13時～16時（開場12時30分）
●会場：武庫川女子大学 公江記念講堂

地球がよるこ明日をつくるー「環境共生」という約束ー

●第1部：特別講演
「環境共生フィールドワークで気づいたこと」
●第2部：パネルディスカッション
「環境共生とは？」
●第3部：質疑応答

参加無料
事前申込制
定員100名

武庫川女子大学の環境共生学部 2025年4月開設
文理の垣根越え 環境と社会技術のスペシャリストを育成

環境共生学部は、環境共生学を核として、環境共生学と関連する分野の知識と技術を身につけるための学部です。環境共生学とは、環境と人間の関係性を理解し、持続可能な社会を実現するための学問です。環境共生学部では、環境共生学の基礎知識と応用技術を提供し、環境共生学のスペシャリストを育成します。

学びの環境
ENVIRONMENT

女子総合大学だからこそ実現する、充実した学びの環境

豊富な自然環境の中で行われる
フィールドワーク

実践的な学びの場
環境共生学部専用の
プロジェクトルーム

様々な環境分野をカバーする
教員陣

対面で伝える
日経STEAMシンポジウムに環境共生学部専用ブース開設
80人以上が説明を聞く（7月30日）

兵庫県丹波市イベント参加

選べる3つの環境分野

自由に選べるカリキュラムから、目指す進路に合わせて専門分野を学ぶ

環境保全型
環境共生系
環境資源活用系

環境保全型
環境共生系
環境資源活用系

環境保全型
環境共生系
環境資源活用系

地域連携

国立環境研究所 琵琶湖分室
ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター
グッドホールディングス株式会社
JT生命誌研究館
兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター
阪神園芸株式会社
西宮市（環境局など）
モンペル

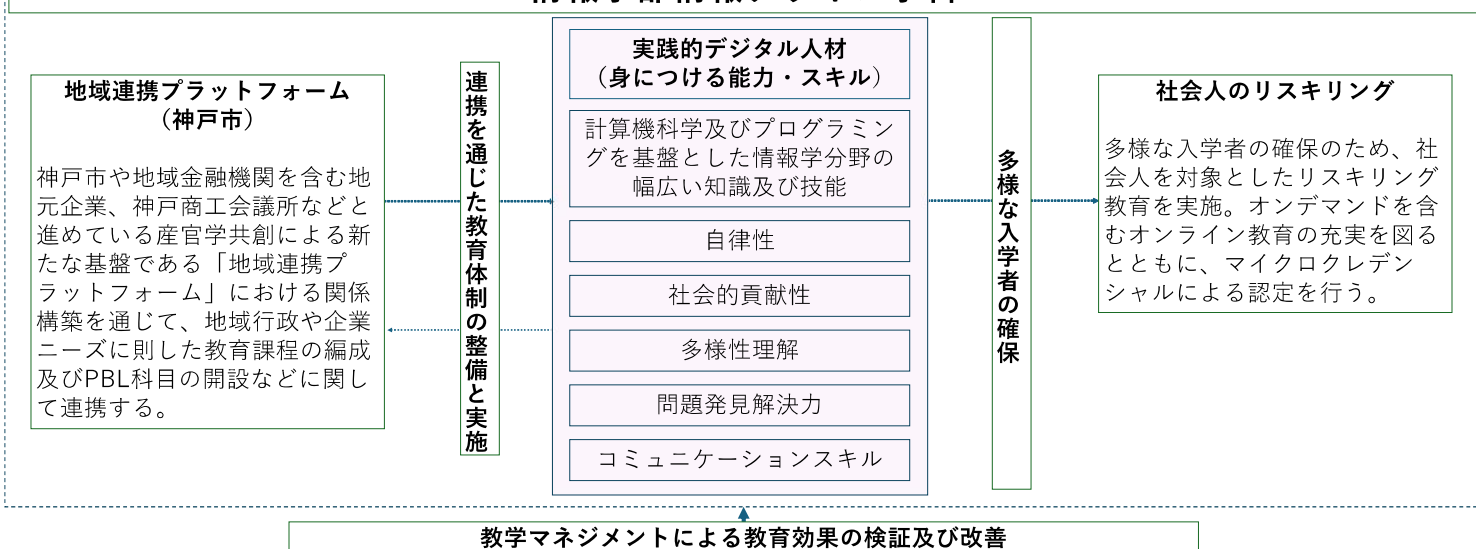
基本情報

改組予定年度： 令和8年度
改組内容： 学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名： 情報学部情報デザイン学科
入学定員： 【R8年度 新設】80名
所在地： 兵庫県神戸市

新設学部の特徴

計算機科学及びプログラミングを基盤とした情報学分野の幅広い知識及び技能を体系的に学び、問題発見解決力とコミュニケーションスキルを身に付けた**実践的デジタル人材を育成**を目的とし、とりわけ中小企業において活躍するデジタル人材育成に焦点をあてる。地元自治体である神戸市や地域金融機関を含む地元企業、神戸商工会議所などと進めている産官学共創による新たな基盤である「**地域連携プラットフォーム**」における**関係構築**を通じ、神戸市や参画企業の協力のもと地域行政や企業ニーズに則した教育課程の編成及びPBL科目の開設などに関して連携する。また**社会人を対象としたリスキリング教育**に資するため、**オンデマンド教材を開発**し、**マイクロレディンシャル**により認定する。

情報学部情報デザイン学科



カリキュラムの特徴

- 数学に自信が無くても必要な知識が身につく授業や、情報学分野における外国籍の人々や女性を含めた**多様な人の多様な働き方について学べる授業**など、ユニークなカリキュラム設計。
- **経験学習を1年次から取り入れ**、多彩なテーマ（例：情報×観光など）でのプロジェクト活動または先端技術を用いたアプリケーションソフトウェアの開発、それらの成果の提案を通じて、企業や自治体とかわる。
- **海外の大学・企業と提携**して、異文化に触れながら技術を実践し、様々なことにチャレンジする機会を設ける。
- 生成AIを使いこなすために、**正しい日本語、論理構造、ロジカルシンキング**を身につける。
- 魅力のあるサービスや表現方法など**デザインの視点**を身につける。
- **3つの学習モデル**を設定し、専門性を活かした幅広い分野での活躍を強力にサポート。

3つの学習モデル & 将来の活躍イメージ



「システムデザイン」モデル

AIなどの先端技術を修得し、研究開発、システム開発や保守を担うIT専門職です。デザイナー、AIクリエイターと協働し、操作性と効率性に優れたシステムを構築します。



「ビジネスAI」モデル

ICT・AI活用策を現場と経営者に提案、組織の課題解決や新たな価値を創出します。職場のデジタル化を推進し、利益率アップ、新ビジネスの提案、業務の効率化を担います。



「AIクリエイター」モデル

ICT・AIを活用し多様な情報をもとに、魅力ある製品や広報物を開発します。直感的で見やすいアプリやターゲットの目を引く広告チラシなどを創造します。

学べる分野（例）

「組み合わせ」で広がる情報学部の学び

情報学部の学びは、本学の多様な学問分野と組み合わせることで大きく広がります。

グローバル × 情報

観光イベントでの、謎解きLINEアプリの企画開発や、AIやメタバースでのバーチャルツアーなど

心理 × 情報

心理カウンセラーを必要とする方向けのAIチャットボットなど

教育 × 情報

介護・福祉施設でのDX促進、児童のための学習アプリ開発など

経営 × 情報

ARによる商品配置シミュレーション、ECサイトのUXデザインなど

地域の行政や企業と連携

- 2・3年次を中心に行われる『**実践演習**』では、社会人基礎のマナーなどをはじめ、業界の課題やこれからの展望など、行政や企業との連携から知識を修得。また、各専門科目で修得する先端技術を用いてアプリ開発やAIによる未来予測などを実践し、社会問題の解決にチャレンジ。
- 次世代のDXを実現するための知識とスキルを**段階的に身につける**ことができる。

多様な学び方を実現

- 学部の特徴としても記載したように**社会人を対象としたリスキリング教育**を念頭に置き、通常授業についてもハイブリッド型で授業を実施したり、オンデマンド受講できるようにだけでなく、**フルオンデマンドでの講義を構築**する。これは秋入学や編入の留学生を含む学生の学習環境を整えることにも資する。
- **マイクロレディンシャル**により認定する科目や科目群を設定する。